



1 奈良絵本 普我物語 二十帖 15,000,000円

寛文・延宝頃写 紙本金泥極彩色画  
絵・百五十二図(内見開図十三図)  
金泥下絵入料紙  
鉄心斎文庫旧蔵  
各縦23.3檜 横16.8檜 綴葉装 箱入  
挿絵に一部錯簡・落丁あり



奈良絵本  
2 わたさかもり 二冊

3,500,000円

寛永頃写 紙本金箔極彩色画  
絵・(上)六図 (下)七図(内見開図一図)  
各豎18樞 横25.2樞 帙入



奈良絵巻  
3 松竹鶴亀 二巻

5,500,000円

寛文・延宝頃写 紙本金泥極彩色画  
絵・各五図 金泥下絵入料紙  
紙高各33.3樞 長さ(上)7米84樞 (下)9米46樞 卷子装 塗箱入



4 奈良絵巻  
七草 一巻

1,650,000円

寛文・延宝頃写 紙本金泥極彩色画  
 絵・六図(内長大画四図) 金泥下絵入料紙  
 紙高31～32.2糎 長さ8米49糎 卷子装 箱入 改装



5 奈良絵巻  
伏見常盤 八枚

1,320,000円

室町末期写  
 紙本極彩色画  
 各30.2×50糎 未装 一部傷みあり



6 奈良絵本  
御曹子島渡り 七枚  
寛文・延宝頃写  
紙本金泥極彩色画  
各17.6×25・5糎 未装

275,000円



室町末期写  
三扇三首 紙本彩色画  
本紙縦16・2糎 横24・8糎  
総丈縦12・6糎 横41糎  
軸装 箱入

7 扇の草子 一幅

三万、〇〇〇円



8 能きやうけん 一卷

江戸前期写  
紙本金銀泥極彩色画 二十四図  
紙高33.1糎 長さ7米50糎 卷子装 箱入

1,320,000円



## 9 小哥絵巻 一巻

3,500,000円

江戸中期写

紙本金泥彩色画 十二図

紙高27.2糎 長さ3米84糎 卷子装 箱入



## 10 舞楽図 二巻

2,200,000円

江戸中期写

紙本金銀泥極彩色画 (乾)二十七図 (坤)二十六図

紙高各28.6糎 長さ(乾)13米21糎 (坤)12米2糎 卷子装 箱入



## 11 隨身庭騎絵巻 一巻

275,000円

文政十三年狩野養長(木原楯雄)写 文化十四年岡田顕忠奥書伝写 明治五年追記あり

紙本彩色画

紙高28.1糎 長さ2米98糎 卷子装 箱入

狩野養長……絵師。肥後狩野家十代。国学者・木原楯臣の弟。狩野弘信の養子。通称、藤太・楯雄等。号、凌霄・華齋等。明治八年没(61才)。



## 12 餓鬼草紙 一巻

935,000円

江戸後期写

紙本銀泥彩色画

紙高28.7糎 長さ6米9糎 卷子装 箱入 虫補修あり



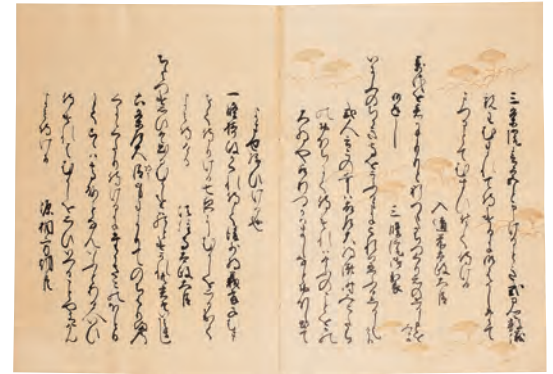
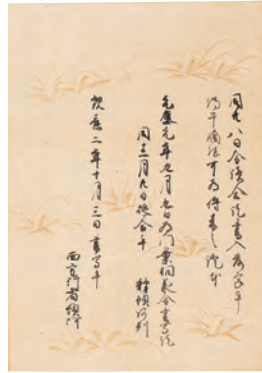
## 13 長谷雄草紙 一巻

440,000円

江戸末期写 天保二年豊泉法橋(高井豊泉)奥書伝写

紙本彩色画

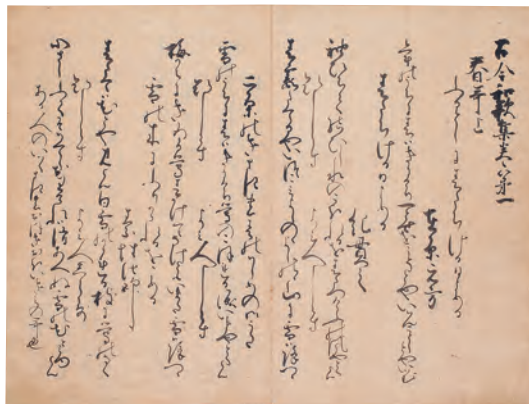
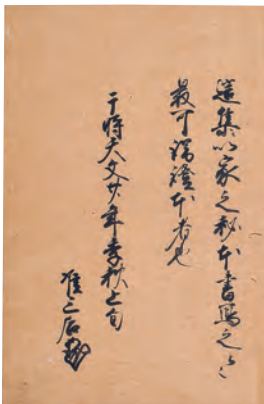
紙高34糎 長さ11米52糎 卷子装 箱入



14 二十一代集 五十帖

6,500,000円

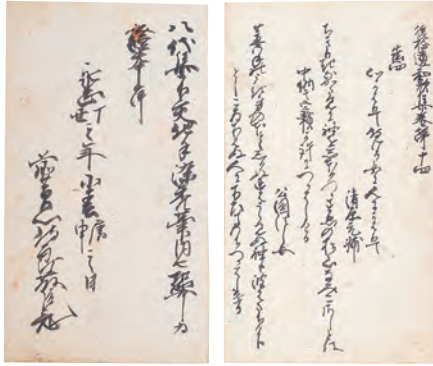
江戸前期写  
 金泥下絵入料紙 伝島津家伝来  
 各豎23.5糎 横16.9糎 綴葉装  
 丸に十文字・丸に揚羽蝶紋入黒漆塗鳳凰唐草模様金蒔絵篋筒并黒塗箱入 一部小虫・小傷みあり



15 古今和歌集 一帖

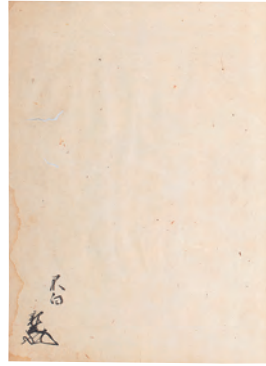
2,000,000円

伊聖護院道興筆 室町中期写 天文廿年近衛種家加証奥書  
 貞応二年本系統  
 富岡鉄斎旧蔵  
 豎25.4糎 横16.9糎 綴葉装 箱入



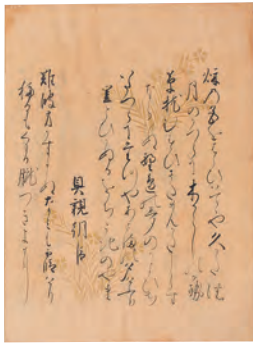
16 後拾遺和歌集 一帖 198,000円

永正十四年橋本公夏筆  
 卷四から卷二十までの約四割を収める  
 加賀前田家伝来  
 縦21.5糎 横13糎 綴葉装  
 橋本公夏……公卿・歌人。清水谷実久の子。  
 権中納言。正三位。天文七年没  
 (85才)。



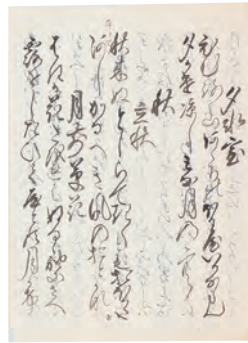
17 新続古今和歌集 一冊 198,000円

蜷川親元筆 大型の書型  
 卷十二の一部二十三首と卷十三～十五を収める  
 寛永十一年古筆了佐極書 加賀前田家伝来  
 縦27.4糎 横21.6糎  
 卷十三と十五に一部欠あり 一部小虫入  
 蜷川親元……武家・連歌師。親当(智鑑)の子。号、不白・友石。長享二年没(56才)。



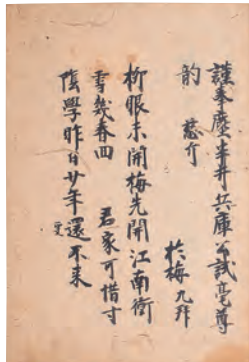
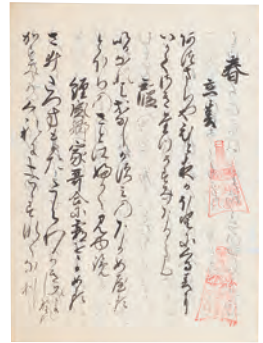
18 自讃哥 一帖 165,000円

伝知恩院良純法親王筆 江戸前期写 上本  
 大型の書型 表紙・紺紙金泥下絵入  
 題簽・朱地金泥下絵入  
 金切箔散金泥下絵入料紙 川勝宗久極札付  
 縦26.5糎 横20糎 綴葉装 箱入



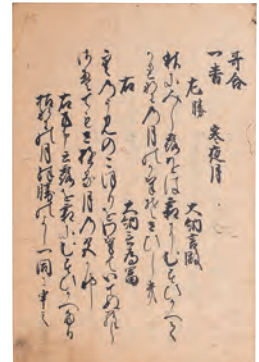
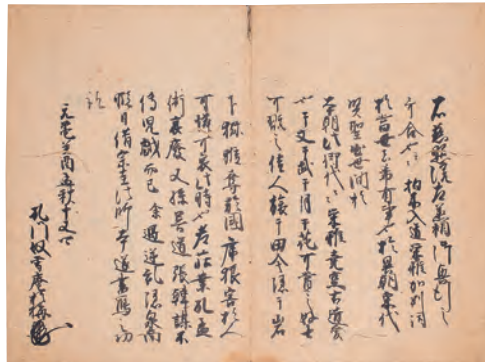
19 忠度百首 一冊 275,000円

江戸初期写 異本  
 紙背に『源氏物語』と思われる書写あり  
 曼殊院旧蔵  
 和大 映入



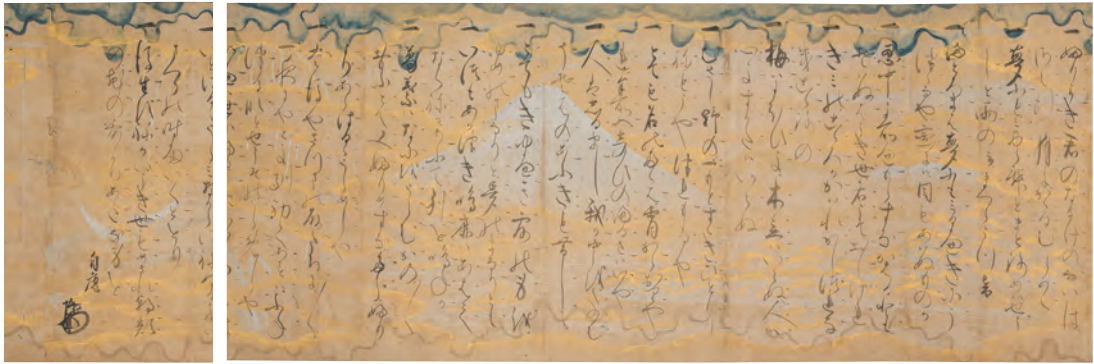
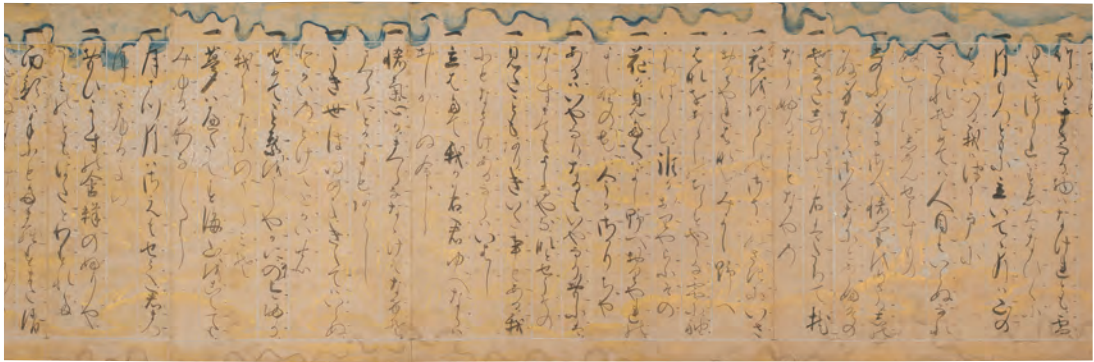
20 將軍家御哥合 一帖

足利義尚等詠 飛鳥井雅親判 元龜四年孔門奴雪庵於梅筆  
 奥書に、争乱により泉南に逃れ、宗圭法師の本を借りて書写した旨の記述あり  
 縦25糎 横17.2糎 綴葉装 映入 一部虫入



550,000円

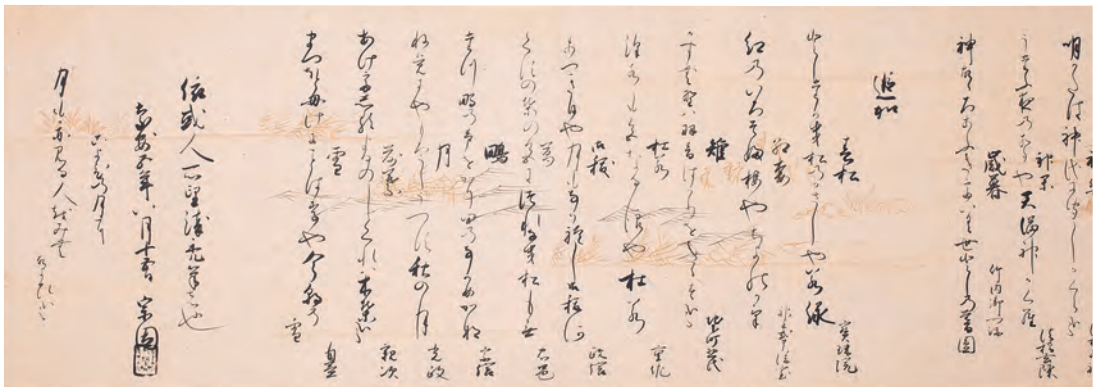




## 21 隆達小歌集 一卷

8,500,000円

高三隆達自詠自筆 桃山期写  
 外題・伝近衛信尹筆  
 墨譜付 内曇金銀泥下絵入料紙  
 古筆極札付  
 紙高28.2糎 長さ5米5糎 卷子装 塗箱入



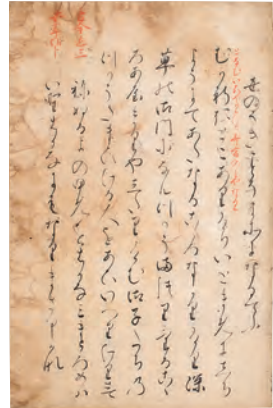
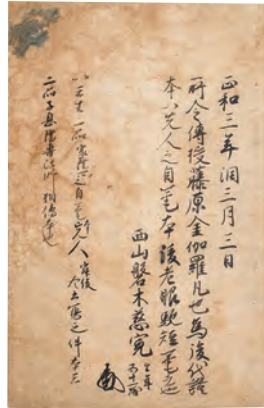
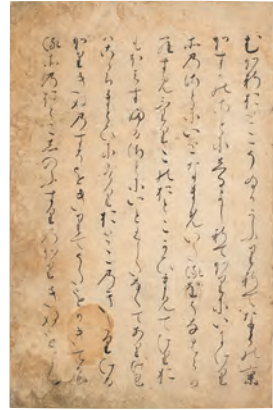
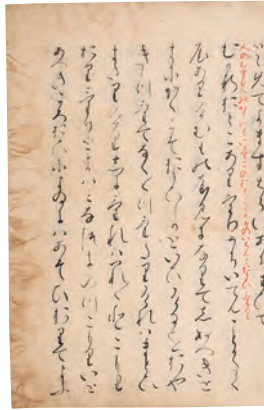
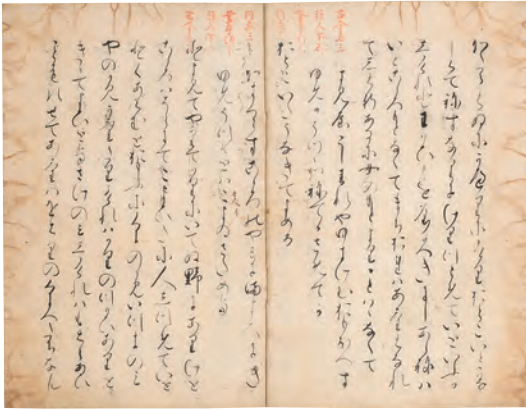
## 22 当聖廟七百五十年忌於摂州大坂天満宮万句 第一 一卷

1,100,000円

慶安五年八月十五日西山宗因筆  
 卷末に「こよひの月に／月も亦見る人を見む／こよひ哉」の宗因句あり  
 金銀泥下絵入料紙  
 紙高30.2糎 長さ4米81糎 卷子装 箱入 一部虫入

西山宗因……連歌師・俳人。肥後熊本生。名は豊一。号、宗因・一幽等。昌琢門。大坂天満宮連歌所宗匠。天和二年没(78才)。





25 伊勢物語 一帖

6,500,000円

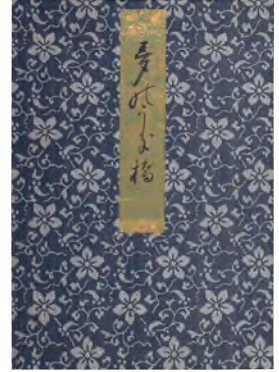
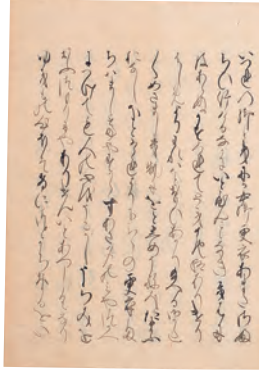
西山慈寛筆 正和三年写  
 朝倉茂入極札付  
 竪24.7寸 横16寸 綴葉装 箱入 浸入



26 大和物語 卷下 一卷

198,000円

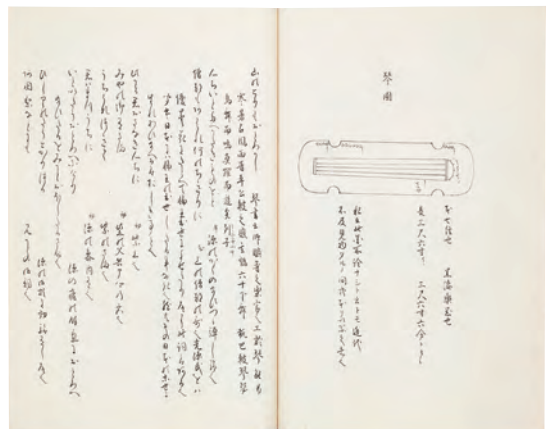
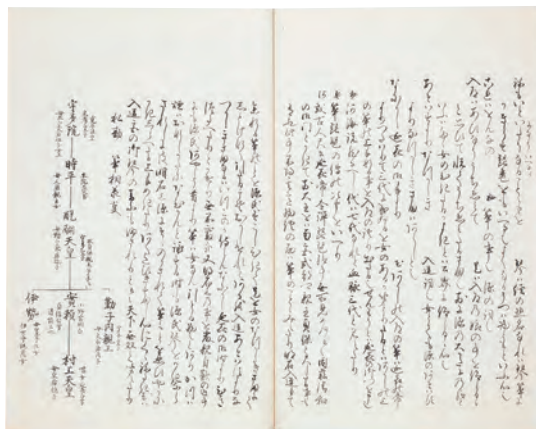
荒木素白筆 第百四十九段～第百五十五段  
 龍刷模様并雲母刷模様入料紙  
 紙高21.6寸 長さ4米33寸 卷子装 箱入  
 荒木素白……書家。名は光辰。通称、三次。烏丸光広家臣。上代様の中興と称された。貞享二年没(86才)。



27 源氏物語 五十四帖

4,500,000円

江戸前期写  
青表紙本系統  
各竪23.4種 横16.5種 綴葉装 黒漆塗唐草模様金蒔絵源氏簞笥入



28 岷江入楚 五十五冊

935,000円

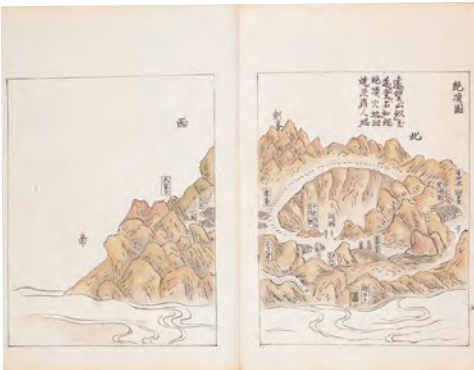
中院通勝 江戸後期写 上本  
異本校合あり 一部図入  
表紙・霞模様入  
西条藩松平家伝来  
和大 一部浸・小虫入



29 陰陽之八卦悉伝 一冊

605,000円

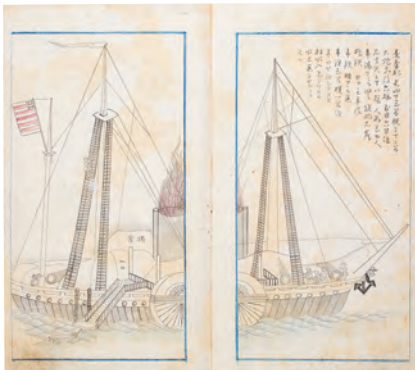
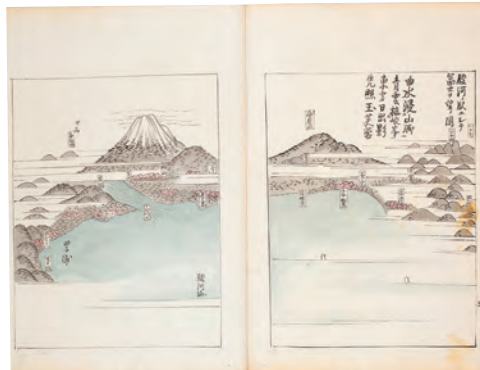
寛永十九年俊祖写  
 彩色絵入 丹表紙  
 八卦八字之因縁事・六十四卦因縁事・依王道黒道病人善悪知事・神内門外事等を取める  
 和大 映入 浸・一部傷み・墨付あり



30 富岳雪譜 三冊

605,000円

和久田叔虎 明治期頃写  
 彩色図入 笹野堅旧蔵  
 和大 映入



31 嘉永六年北アメリカ船来航記録 一冊  
 198,000円

江戸末期写 彩色図入  
 近海之図・墨国船入来之図・軍戦之図・  
 品川御台場・魯西亞火戦之図等挿図多数、  
 また詳細な記録を記す  
 和半 映入 一部浸入



32 奇術・細工物集 一冊  
 330,000円

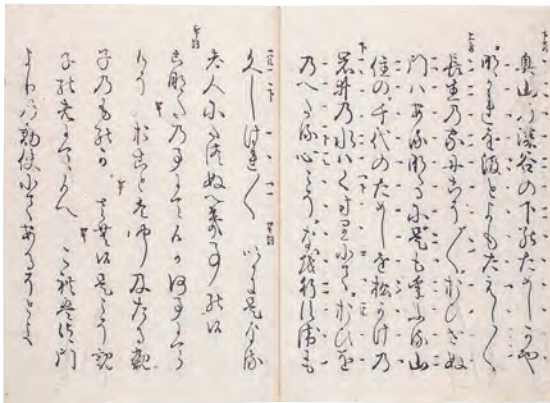
明治期写  
 紙本彩色画 三十六図  
 和半 映入



33 百万塔 付自心印陀羅尼 一基一卷

2,200,000円

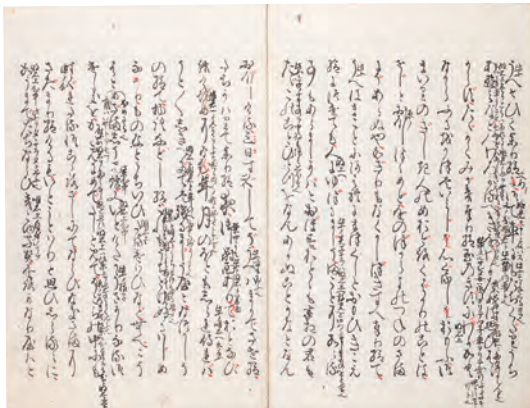
奈良時代造  
 神護景雲四年刊・無垢浄光经自心印陀羅尼(短)一卷付  
 相輪部に墨書あり  
 〈塔〉高さ21.5寸 底部径10.4寸  
 〈陀羅尼经〉紙高5.8寸 長さ38.5寸 箱入 一部傷みあり



34 光悦謡本 老 一冊

慶長期刊 古活字版 並製本  
 表紙・薄水色地雲母刷獅子丸蔓牡丹  
 (丙)模様入  
 元題簽付  
 和太 映入 裏打ちあり

1冊、000円



35 伝蔵職本 源氏物語 一冊

慶長中刊 古活字版  
 朱点・朱・墨書入あり  
 原装元題簽付(雲母刷模様入題簽)  
 和太 映入

1冊、000円









丹緑本  
39 保元・平治物語 六冊

2,500,000円

寛永三年刊  
丹緑絵・〈保元〉三十五図 〈平治〉三十七図  
各豎27.4糎 横18.7糎 帙入 一部浸入



40 夫婦繪尽 二冊

4,500,000円

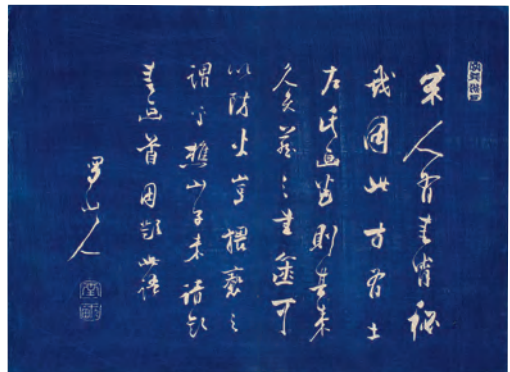
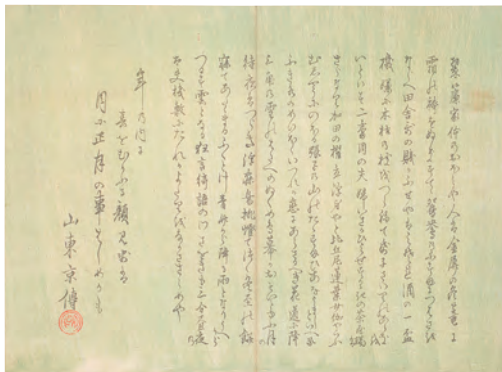
宝暦二年刊 奥村版  
絵入  
三田村彦五郎旧蔵  
各豎18糎 横13.5糎 帙入



41 今様職人尽百人一首 一冊

1,500,000円

近藤清春作・画 享保頃刊  
絵入  
豎21.3糎 横15.3糎 帙入



42 春窗秘辞 一帖

935,000円

淇澳堂主人編 文化十年頃刊  
 彩色刷 原装元題簽付  
 縦27種 横18.2種 折帖装 映入



43 河南楼本 芥子園画伝 六冊

1,320,000円

江戸中期刊 河南四郎右衛門他版  
 一部彩色刷 原装元題簽付  
 八条家旧蔵  
 縦28.4種 横18.3種 箱入



44 胸中山 一冊

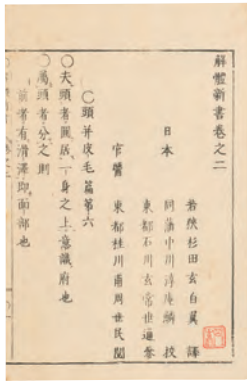
198,000円

亀田鵬斎 文化十三年刊 須原屋伊八他版  
 彩色刷 原装元題簽付  
 中野康章旧蔵  
 和大 映入

45 光琳漫画 一冊

132,000円

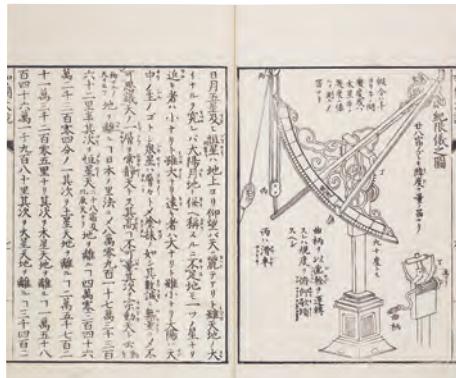
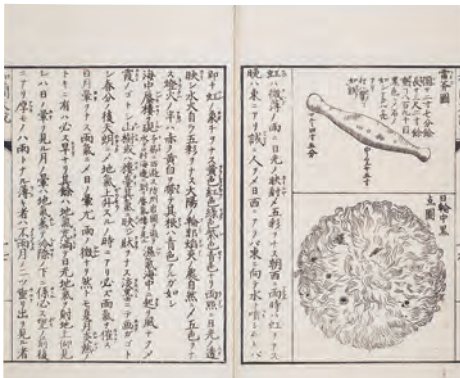
立林何帛編 文化十四年刊  
 角丸屋甚助他版  
 原装元題簽付 中野康章旧蔵  
 和半 映入 一部虫・小浸入



46 解體新書 五冊

3,500,000円

杉田玄白他訳 小田野直武図 安永三年刊 須原屋市兵衛版  
 原装元題簽付  
 各巻25.5糎 横18糎 帙入 一部虫・浸入



47 和蘭天説 一冊

935,000円

司馬江漢 寛政八年刊 春波楼蔵版  
 図入 一部朱書入あり 原装元題簽付  
 和大 帙入



48 六物新志 二冊

330,000円

大槻玄沢 天明六年刊 兼葭堂蔵版  
 図入 原装元題簽付  
 大槻家旧蔵  
 和大 帙入



49 綿甫要務 二冊

198,000円

大倉永常 天保四年刊 丁字屋平兵衛他版  
 図入 原装元題簽付  
 和半 帙入



50 東海道五十三次画帖 一帖

605,000円

絵半切的絵本 江戸後期刊

彩色刷

宿駅には各々点数が付され、巻頭には「一句余は大津へ並云々」朱印、所々に「泊」朱印が捺される  
 縦17.2糎 横12.3糎 折帖装 帙入 裏表紙欠 一部虫・ヨゴレあり



51 朝鮮人來朝大行列略図 一卷

1,650,000円

文化八年頃刊 松雲堂版

合羽刷 六枚続

紙高17.5糎 長さ2米85糎 未装 箱入



52 江戸八景 八枚

880,000円

豊広画 江戸後期刊 鶴金版  
 彩色刷  
 各約26.7×39.3種 未装 ヨゴレ・小傷みあり



53 総房海陸勝景奇覧

一枚

葛飾北斎画 文政頃刊 耕書堂他版  
 彩色刷  
 40・8×53・8種 未装 一部小浸入

1,100,000円



54 江戸名所一覽双六

一枚

二代広重画 安政六年刊 蔦屋吉蔵版  
 彩色刷 元袋付 未装  
 72・5×72種

495,000円



55 今源氏錦絵合 一帖

550,000円

三代豊国画 嘉永五～安政元年刊 佐野喜版  
 彩色刷 五十四枚  
 本紙縦24.5種 横18種 総丈豎26.6種 横19種 折帖装 軼入 跋文欠



56 襟嶺花鳥画譜 二帖

715,000円

幸野襟嶺画 明治十六年刊 大倉孫兵衛版  
 彩色刷 五十図  
 各豎36.5種 横24種 折帖装 軼入



57 高輪半町朧月景 一枚

110,000円

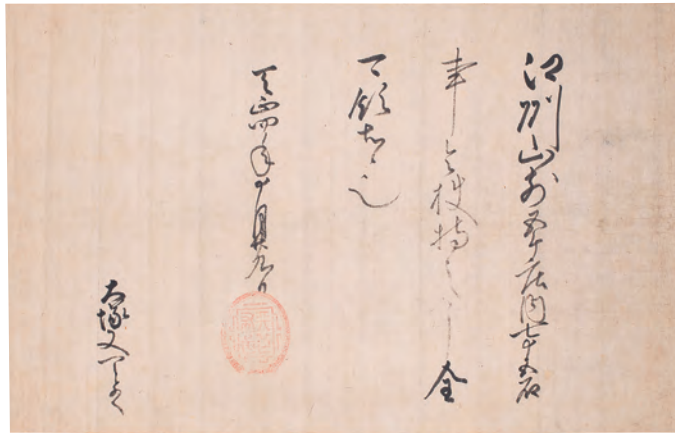
小林清親画 明治十二年刊 福田熊治郎版  
 彩色刷  
 25.2×37.6種 未装 折れあり



58 新橋ステーション 一枚

275,000円

小林清親画 明治期刊 福田熊二良版  
 彩色刷  
 23.8×36.7種 未装 折れあり



## 59 織田信長朱印状 一巻

6,500,000円

天正四年十月廿九日付 大塚又一郎宛

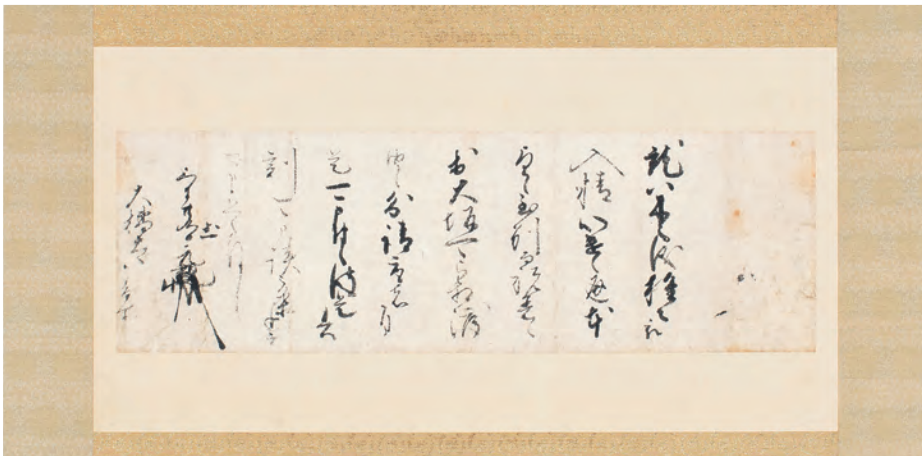
織田信長(1534～82)が大塚又一郎に宛てた朱印状。内容は以下の通り。

近江国山前五ヶ庄内の七十五石分の領地について、そちらに給付します。知行するように。

「山前五ヶ庄」は現在の近江八幡市に該当する地域である。大塚又一郎については、『信長公記』によれば、天正六年(1578)元旦に信長が重臣と酒宴をおこなった際、酌を務めている他、同年六月に播磨神吉城攻めの検使に赴いている。また、本能寺の変でも信長方として討死している。信長の近習のような役割を務めた人物と評価できよう。

本文書の年月日は天正四年十月二十九日となっているが、この日は同時に坂井利貞へ四十五石、兼松正吉へ三十五石、岡部長左衛門へ三十石がそれぞれ近江国内から宛がわれている。信長は天正四年から安土城の築城を開始し、拠点を岐阜城から安土に移しているため、それに伴う近習達への領地宛行と想定することができる。信長は、天正六年に弓衆・馬廻衆の多くが妻子を呼び寄せていないことが発覚した際、尾張にある彼らの屋敷を焼き払い強制移転させたことで有名だが、本文書に見られる領地宛行も、家族を含めた安土付近での生活を想定して発給されたのであろう。安土移転初期の様相を伝える文書として評価できよう。

紙高29糎 長さ45.3糎 卷子装 三重箱入



## 60 長宗我部元親書状 一幅

3,000,000円

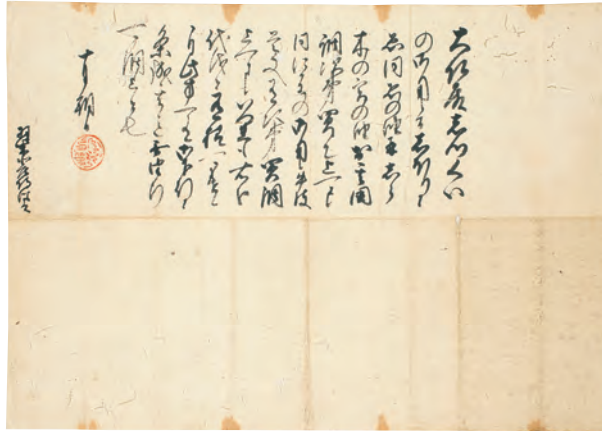
三月廿九日付 大橋宛

長宗我部元親(1538～99)が大橋殿に宛てた書状。内容は以下の通り。

米の件につきましては、色々尽力されて、大変満足でとりわけ嬉しく思います。大坂にて渡されるとのことですが、受け取りにつきましては、こちらから指示します。詳しくはその際に相談できればと思います。追って連絡致します。

米の受け取りに関する内容である。文中に大坂にて受け取る予定であると記されていることから、豊臣政権に服属した天正十三年(1585)以降に発給されたことが分かる。これ以降、元親は上方に滞在する機会も増え、長宗我部家の大坂屋敷の存在も指摘されている。それに伴い、相応の出費も要したようであり、文禄五年には秀吉から一万石を下賜されることもあった。上方滞在に伴う費用捻出のやり繰りが窺えるという点で、本文書は興味深い。

本紙縦15.5糎 横49.4糎 総丈縦115.5糎 横65.5糎 軸装 箱入



## 61 豊臣秀吉朱印状 一通

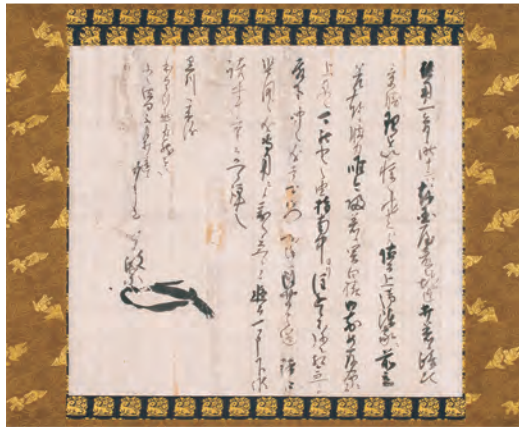
2,500,000円

十月朔日付 羽柴北庄侍従宛

大仏殿の漆喰に用いるので、搾った荏胡麻、同じく荏胡麻油及び白木の実の油をそちらの国で調達できる分を購入し、こちらに送るように。同じく膠(にかわ)に用いるので牛皮も入手できる分を購入してこちらに送るように。必要経費についてはこちらから支給するので、滞りなく調達するように。

内容から、大仏殿造営に必要な漆喰や膠製造に用いる原料を調達するよう命じたことが分かる。大仏殿は東山大仏(方広寺)を指すと考えられ、天正十六年(1588)はその造営が本格的に着工される時期である。また、羽柴北庄侍従は当時、越前北庄城主であった堀秀政に比定される。

大仏殿造営にあたって秀吉は、天正十六年六月に島津義久に対し、領国内の唐人・日本人の漆喰塗りを召し出すよう命じている。また、秀吉は本文書と同様の朱印状を中川秀政(摂津)・長谷川秀一(越前東郷)・一柳直末(美濃)・溝口秀勝(若狭)に発給しており、物資調達も複数の大名に命じて大規模におこなわれたことが分かる。原料の輸送を命じていることから、漆喰や膠は京で製造されたことも推測され、当時用いられた原料も具体的に窺うことができる。大仏殿造営初期の実態と経過が窺える点で、本文書は非常に興味深い内容である。縦46糎 横65糎 原装



## 62 伊達政宗書状 一幅

1,500,000円

五月十七日付

内容は、五月十六日に越後国弥彦に到着し、路次では上杉景勝の馳走にあずかったこと、先に豊臣秀吉の陣中へ派遣した飛脚が帰ってきたこと、そして、秀吉との応対については政宗の思う通りに調整するので、早々に(小田原へ)来るようにとの指示があったため、一層道中を急ぐことを伝えている。

政宗が弥彦を訪れていることから、秀吉の小田原征伐に際して小田原へ参陣した天正十八年(1590)の書状であると断定できる。当時の伊達領国周辺では最上・相馬・岩城・蘆名・二階堂・佐竹など大小の諸領主が鎬を削っており、政宗は彼らとの抗争を通じて伊達氏の勢力拡大を着実に進めていた。天正十七年、政宗は摺上原の戦にて長年の宿敵であった会津の蘆名義広を破り、現在の福島県・宮城県・岩手県南部に及ぶ広大な領域を掌握することに成功した。しかし、前年十月以来秀吉に服属していた蘆名氏を討滅したことは、惣無事を掲げて全国平定を進めていた秀吉から問題視され、上洛と弁明を求められた政宗は、小田原へ出陣してきた秀吉軍の圧力に屈する形で、天正十八年五月九日、会津黒川城を發して小国から越後・信濃經由で小田原へ向かった。

書状からは、越後の上杉景勝が路次の通行に際して便宜を図ったことが知られる。政宗は当初南会津から北条領内を通して小田原へ向かおうとしたようであるが、既に戦闘が始まっている北条領内の通行を避けて越後經由のルートに変更したのであろう。

本紙縦33糎 横37糎 総丈堅129糎 横49.5糎 軸装 箱入